

## 部活動の醍醐味

だいごみ

朝いちばんに、教育委員会からの来客をお迎えしました。来校されたのは、学校教育課長と課長補佐の二名。先日美術文化部が全員で完成させた「ねんりんピック」の福岡県選手団応援横断幕をお渡しするためです。

作ったものを教育委員会に提出するだけでは残念だと生徒たちは思いました。部長の三年F・Sさんを中心とする三年生四名が、横断幕を広げて校長室に入ってきてきました。それを初めて目にしたお二人は、その完成度の高さにびっくりされました。

「普段一人ひとりが作品作りに取り組んでいるのですが、今回このような横断幕の制作の話をいただいて、美術文化部全員で取り組むことができました。」

F・Sさんはきはきと語りました。これまでは、一人ひとりが思い思いに作品制作に取り組んでいましたが、初めて部員全員で一つのことに取り組むことができたようです。福岡県から参加する方たちに喜んでもらえるように、何を盛り込むかわから考え、デザインの考案、下書き、色塗りに部員全員が携わったことは、貴重な経験になったことでしょう。

これが「思い入れ」です。周りからは依頼されてものを作っているだけに見えても、制作に携わる者からすると、仲間と心と合わせて作り上げた努力の結晶です。そんな全員の努力が詰まったものならば、そっけなく提出するだけではなく、自分たちの心と共に相手に渡したいと思うのは当然のことです。

「こんな心のこもった横断幕なら、受け取りに来るのが当然ですね。」

学校教育課長のU氏は、帰り際にこうおっしゃってくださいました。

残念なのは、この横断幕で歓迎される福岡県選手団の方々の反応が生徒たちにはわからないということです。それがわかれば、制作した生徒たちの感動はさらに大きくなることでしょう。

中体連ばかりが目されたこの夏ですが、美術文化部も全員で一つのことに取り組み、すばらしい成果を収めました。一つのこと全員が心を集まり、すばらしい部活動の締めくくりができたことが何よりうれしいことでした。そこには運動部と文化部という垣根はありません。それぞれの部が、それぞれの形の「有終の美」で終えられることが、部活動の醍醐味だと言えるでしょう。



(七月二十日 記)